




(発行)
 熊本市教育委員会事務局
 学校教育部 総合支援課
 学校サポート班
 (文責)
 指導主事 田中 慎一郎
 tanaka.shinichiro@city.kumamoto.lg.jp

熊本市教育センターホームページからもバックナンバーを見ることができます。(〃)〰〰



こういったときだからこそ…

～非常時に潜むインターネット使用のリスク～



店頭から1日でトイレットペーパーが無くなる事態が、熊本で起きました。きっかけはSNS。原材料が入手困難となり、マスクのように商品が少なくなるといったツイートです。しかし、この情報はデマでした。情報が出回ったのは他都市も同じです。しかし、いち早くデマに流されたのは熊本でした。私たちは、熊本地震で「ライオンが檻から脱走」というデマを経験しています。それなのになぜ、このような事態になったのでしょうか。

理由の一つに、熊本は地震以来、SNS上から情報を入手しやすい傾向にあるのではないかと考えます。地震の時、貴重な情報源の一つがSNSでした。私たちは、その経験で、他都市に比べて

ニュース記事ではなく、SNSの書き込みから情報を手に入れがちになったのかもしれませんが。

それともう一つ、地震後に他都市に比べ増加したものがああります。それは、子供達のツイッター利用です。当時の避難所では、スマホを手にする子供達の姿をいたるところで見ました。休校で友達と会って話せない分、離れていても友達とつながれるSNS利用が広がりました。勉強以外での平日のネット使用時間についても、ユニセフのアンケートでは、全国平均に比べ熊本が高い結果となりました。

非常時には、SNSは、情報を得るという意味でも、友達とのコミュニケーションを取るという意味でも、とても有効なもの

になります。その一方で、リスクも生じます。親子でネットの良い使い方、気をつけなければならない使い方について、話し合う良い機会かもしれません。ぜひ、ご家庭で情報の扱い方や使用時間など話題にしてほしいと願います。

想定されるリスクとは

不要不急の外出を防ぐのであれば、子供達はなるべく自宅にいなければなりません。でも、友達とは話したいし遊びたいでしょう。これを叶えるのがオンラインゲームです。ボイスチャットという機能を使えば、会話を楽しみながら、同じフィールド上でキャラクターを動かしゲームを進めることができます。まるで、公園でサッカーを

しているようにです。親が見ていない時間帯のことなので、人間関係の中で断れずゲームをしてしまい依存に陥る可能性もあります。会話をするならば、そこでのやり取りでトラブルに発展することもあるでしょう。学校で友達と会えないのでSNS利用時間も今まで以上に増えるでしょう。時間が増えれば揉め事のリスクも増えます。そこからネットの中でのいじめが発生することもあるかもしれません。ペアレンタル機能などを活用して、こういった時だからこそ、目には見えない部分の子供のネット利用状況の把握が大切です。



一年間お世話になりました。いろんなところでの皆様の「読んでますよ!」の声掛けが、力になりました。これからも遠慮なく相談してください(*^▽^*)子供達のために大人が知恵を出し合い力を合わせよう。この通信が、そういったものの懸け橋になれば幸いです。通信を通しての皆様との「縁」に感謝です。

おはなし 聞いて



ある小学校に、ネット利用について話しに行きました。目の前の小学生の夢は、サッカー選手でした。彼は、毎日3時間以上、親の見ていないところでオンラインゲームをしていました。彼は、親の言うことを聞かない自分を少しカッコいいと感じていました。私は、彼に言いました。「君の夢は、サッカー選手になること?それとも、サッカー選手になって活躍すること?」クラブチームに所属する彼は、残念ながらレギュラーではありませんでした。彼は試合に出て、自分もゴールを決めたいと私に言いました。日頃の練習も寝不足で参加していた彼。話の後、彼は、親に反抗するのがカッコいいのではなく、自分で自分をコントロールできるのがカッコいいと私に話してくれました。休校の今だからこそ身に着けてほしい力があります。